

## 説教余滴、運転免許更新

自動車を運転するようになって何年経ったでしょうか。

初度交付の日付は、昭和40年1月8日とあります。

当時、25歳。

父の、早くからの教えでした。「自動車の運転ともう一つ手に職を、資格を取りなさい。」将来に備えてのものでした。親に頼ることには限界がある、これは現実のことになりました。高校生の頃だったでしょうか。元気だった父が突然、病に襲われました。家に居て脳梗塞を発症。動かすこともできず、家で治療。1週間、2週間経ったでしょうか、もうだめか、と思いました。その頃、みんなで犬を飼っていました。まだ洋犬が珍しい時代、牧羊犬コリー種、可愛がっていました。名前はヴィク、ヴィクトリーの短縮形、私が名付け親、のつもり。みんなもそれぞれ、そのつもりで居たかもしれません。

医者が、首をひねっていたちょうどその頃、このヴィクが突然死にました。病名は「脳梗塞」。そして父の容態が回復です。皆が言いました。ヴィクが父の病気を、身代わりになって背負って行ってくれたんだ、と。

その頃父は50歳前だったのででしょうか。その後元気に94年の長寿を全うしました。

この時、しみじみ感じたのは、人の命は分からない、ということです。そうした時も、運転免許を生かすことができます。

相原さんの葬儀に際して、タクシーが用意されました。感謝しながら、利用させていただきました。50歳前後の運転士さんと話が弾みました。立正大学大学院の出身、歴史の研究者でした。「歴史を研究しても就職口はないんですよ。」

高齢者の仲間になり、運転免許更新の手続きが面倒になりました。政府は高齢者から免許証を取り上げたいのでしょうか。身体不自由になり、自動車が必要になります。本当の自動運転自動車、そのための道路を作るのが本来の政治というものではないでしょうか。

免許証を返納するか、更新するか、迷っています。